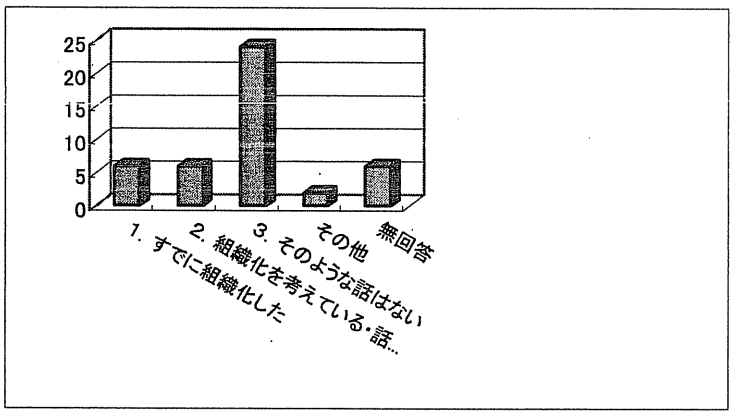
Ⅲ. ボランティア団体やNPO法人への拡大について

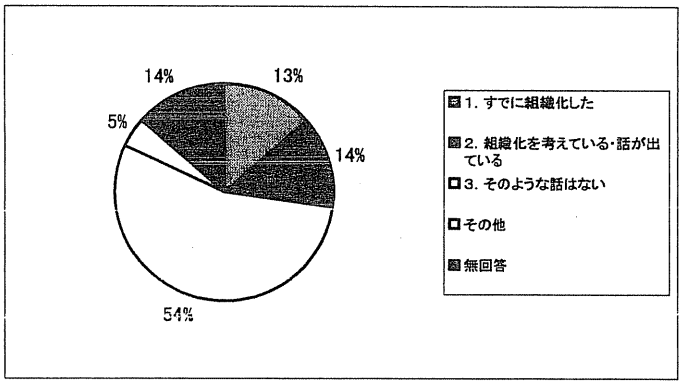
(1) 地域通貨の運営母体や地域通貨に参加している活動グループ、地域通貨を通じて新しくできた活動グループが、ボランティア団体やNPO法人として組織化するような動きはありますか？：SA・FA

1. すでに組織化した　・・・下の欄「A」にご記入ください
2. 組織化を考えている・話が出ている・・・具体的にご存知でしたら下の欄「B」にご記入ください
3. そのような話はない

(1) 地域通貨の運営母体や地域通貨に参加している活動グループ、地域通貨を通じて新しくできた活動グループが、ボランティア団体やNPO法人として組織化するような動きはありますか？	数
1. すでに組織化した	6
2. 組織化を考えている・話が出ている	6
3. そのような話はない	24
その他	2
無回答	6

その他
・ゆうゆうヘルプ・波方：相互助け合い活動ゆうゆう30分チケット使用
・ありがとうコインに刺激されて地域通貨を始めている所、始めようとしている所ができている





※A　「1. すでに組織化した」を選んだ方がご記入ください

NO	地域通貨名称	具体例名称	活動の内容	参加人数
2	ZUKAめふ	ｻﾎﾟｰﾄｸﾞﾙｰﾌﾟ	老人の話し相手. 介助, 調理など	70
21	ちゃこマネー	NPO法人 里山倶楽部	里山の自然環境の保全と里山経済の活性化. 環境教育と人材育成. ※2002.4法人化. 地域通貨は一つの事業として展開しています	会員250人
22	ハミー	NPO法人地球デザインスクール	新しい自然共生文明のあり方を具体的に研究する。 里山の多い丹後において、その保全を図りつつ、木質バイオマスエネルギーを安全供給する可能性を調べる。 自然素材を活用した自力建設の意義やノウハウを理解した人を養成する。ボランティア通貨「ハミー」事業の継承	社員53人
32	骨子作成完了し, 立ち上げ準備中	桐生市ボランティア協議会	社会教育・福祉のボランティア団体相互の情報交換・連絡調整の場としての拠点づくりを目的に市民主導で設立. 活動は一団体ではできないような事業を, 各団体, 個人, 会員の参加で事業展開しており, 地域通貨もその一環の事業で委員会として展開しています.	55団体, 80名の個人会員
37	ota	NPO法人よろずや余之助	よろず相談事業	20名
38	わくわく通貨	NPO法人　わくわくアイランド大島	コミュニティ創造に寄与し, 明るくて住み良い社会の創造	61名

※B 「1．組織化を考えている・話が出ている」を選んだ方へうかがいます

NO	地域通貨名称	1-B 具体例1	活動の内容	参加人数
29	リム	NPO法人の立ち上げ	健やかな子育て～若い母親を対象に 元気な老い方～高齢夫婦,独居老人への対応	50名
39	蚕都くらぶまーゆ（繭）	基本的にはまだなってないが，左記のサークル・プロジェクトを含めて，NPO法人の方向で事業を整理し，展開できるよう検討を進める準備をしている		
9	LOOP	市民芸術あるいはPeace Road	市民の芸術的な創造性の育成，表現することで生活を芸術としていくこと	事務局10名，会員100名
28	おまんただすけい―ねかね（だすけ）	将来的にはNPO等の組織や団体に移行する方向で考えている		
18	未杜	たんばNPOセンター	農村の地域課題研究	

自由記入欄

コミュニティ内では，福祉介護活動が活発であり，既存の組織グループが存在しているが，それらへのエコマネー導入が困難であるのはどうしてか．現状，除福祉介護という制約範囲での活動であるが定着しつつあることは，有難い．

商取引も福祉も生涯学習も区別せず，純農林地域での異業種，各世代の交流を9町の枠組みを超えて試みている．運営は1人年会費500円と講演会収入だけで賄っている．

上記の※Bについて参考資料があったら送ってほしい．組織化を考えているが，進んでいない．ボランティア団体の協力が得られればと考えています．協力者は少数2～3人の段階．

回答者の手もとに詳細な資料が無い為，正確な回答とは言い切れません．申し訳ありません．きゅうHP（http://san-kyu.kir.jp）から資料をDownloadすることができますので，そちらをご活用して頂ければ幸いです．現在，きゅうは第3時流通実験の準備期であります．エコマネーという性質，京田辺市民ではない大学生による運営などの要因により，流通させるのは大変困難であります．が，大学生らしい柔軟な発想でこの困難を乗り切っていきたいと思います．

精神障害者と地域を結びつける目的もあり，実践しているが，地域の方々の参加が少なく，流通もあまりされていないため，問題意識が強い状況であり，今後，その方法なども見直そうと考えています．まだ，アンケートに答えられる状況にありませんので，ご了承下さい．

MAASは，芸術家サポートの地域通貨だが，いまだ知名度は低い．12月に北九州市立美術館での展覧会にMAASの場をつくり，宣伝をひろめてゆくことにしている．HPなども12月に新しく再成立させるので，そのあとに活動は次のステップへ動きはじめます．

毎月一回第3土曜日午後1時に交流会を開催し，問題点の検討，ボランティアによる音楽会，特技ある人の演技，会員による健康の話などを聞き，お茶とお菓子でメンバーはかもん1枚と100円，会員外は200円でかもん1枚を渡し，次回以降それを使用して買う様にしている．

会員中心なので，会以外の地域の人に広げていない．また，会員以外に広げる必要性がまだ感じられないので．地域通貨"モモマネー"はつながりを拡げるきっかけ作りになったが，今，"ものの"貸し借りや円での仕事などいろいろそれぞれが使い分けているようです．

行政の補助を全く受けていないので，コーディネーターの限界が150人程度と考えている．今後，市民が市民を支えるという意識が高まり，事務をする人に報酬が払えるようになれば，拡大も可と考える．補助金にたよらない組織運営の可能性を探ることが目的でもある．

ご参考になりそうもなくて，ごめんなさい．沼津エスペラント会が制作したワットのパンフレットを同封します．ひとつは，日本語．もうひとつは，エスペラント語です．

経済の活性化は考えていないが，高齢者の社会参加，潜在能力の引き出し，介護予防につながる孤立化の防止，地域コミュニティの構築を目指しているが，第1歩からの広がりに苦慮している．

①炭本位制の採用：1ちゃこ（チャコール＝炭）と1gの炭（里山倶楽部製造）と交換が可能→商店が受け入れてくれる大きな理由 ②価値の低減制：担保する炭の量に制限を設けるため．炭との交換価値は1年で半減．2年で0になります．③商店の導入は，商店自身の使い道を考えなければ進みません．

もう少し活発な流通が実現できないものかと思案中です．（交換可能なモノ・サービスを利用者にわかりやすくする等）．地球デザインスクールが活動するフィールドで野菜を育てるなど，農的な営みを始めました．いずれ，その成果物もやりとりしていきたいと考えています．（今は，現地で焼いた炭なども購入できます．）

返信が遅れて申し訳ありませんでした．（転送の為）平成15年6月頃を目標に開始したいとただいま準備中です．会は，平成14年10月12日に発足．名称にしおエコマネー研究会　会長加藤八重

返信が遅くなり誠に申し訳ありません．我々（社）豊田青年会議所では，2001年度3月よりメンバーの方々にエコマネーがどんなものであるのか知って頂く為に3ヶ月間の体験を行って頂きました．現在は残念ですが，体験期間も終了し，エコーは流通しておりません．

急がないで，ゆっくりやろうと考えています．

会員数は多いのだが，意識等（地域通貨のしくみ，地域にとっての必要性についての理解など）に問題もあり，現在，流通量を増やす(個人と個人とのやりとり)．

朝日新聞H14．10．8掲載される．シュミレーションはH14．6．1～8．31三ヶ月間の1回きり．2年後のNPO法人立ち上げに向け，現在，各グループ，サークルが地味ではあるが，確実に参加会員を増やし，サービスの質の向上に努めている．

地域通貨＝コミュニティの再生とつなげてしまう傾向が強いと思う．（このアンケートもしかり）もっと遊び感覚があってもよい．でなければ逆に多くの人をひきつけられない．（ボランティア活動の広がりに限界があるように）

連絡等についてはメールでお願いします．私達の団体は，現在3ヶ月間の実験を終え，報告書作成を行っています．しかし，現段階ではこの活動を事務局として続けていく人がいないため，11月をもってこの研究会は活動を休止します．

2002年8月～9月に実施したアンケート集約の結果報告書を同封します．

H12年度県地域通貨モデル事業に参加した．14年8月1日より痴呆老人グループホーム「多賀の里」が開設され，入所者とのふれあいや，各種行事に参加するなど，少しずつ地域に根ざした活動が活発になりつつある．これからも，あせることなく一歩一歩着実に前進したいと考えている．

詳細は三田村ドットコムwww.mitamura.comホームページの"新着情報"下段「地域通貨発表資料」をご参照下さい．

現在実験①から②への途中ですので，満足な解答ができず，申し訳ありません．

設立してわずか1年ですので，組織体制も大変ゆるやかな形で運営しています．会員お一人お一人が参画意識を持ち，会の運営に関して力が出しあえるようにと考えて，毎月10日に常会を開催し，情報交換，モノ・コトの交換，そしてお互いの交歓をしています．

組織化は「何か」を果たす手段ですが，その「何か」が，まだ十分明確になってません．将来の選択肢には入っていますが，話として持ち上がる前の段階です．

事業創造型地域通貨の可能性に関する研究

（平成15年3月発行）

発行者：　ひょうごボランタリープラザ

共同研究者：　神戸商科大学調査研究チーム

ひょうごボランタリープラザ

連絡先：　ひょうごボランタリープラザ

住所：　神戸市中央区東川崎町１－１－３

神戸クリスタルタワー１０階

電話：　（０７８）３６０－８８４５

ＦＡＸ：　（０７８）３６０－８８４８